

# 紙資源を燃やさないで

村と桐林クリーンセンターでは、年に2回、燃やすごみの内容物チェックを行っています。

その際に燃やすごみの組成を調べたところ、本来ならリサイクルできる紙資源を燃やしてしまっているケースが多々見られました。

特に多いのは、いわゆる「雑がみ」と呼ばれる、お菓子・食品の包装紙やトイレトペーパーの芯、ティッシュの箱などで、全体では燃やすごみの11.5%がリサイクルできるものであったことがわかりました。

紙資源は有価物として紙の再生業者に引き取られ、中学校生徒会の活動費や村のごみ処理の財源となっています。また、燃やすごみ袋も高価ですので、ちょっとした分別の手間だけでごみの量を減らすことは家計の助けにもなります。

なにより、豊かな地球環境を次世代へ継承することは、みんなの責任・義務であり、願いです。

紙資源のリサイクルにご協力をお願いいたします。

## 代表的な雑がみ



## 「雑がみ」の出し方は3種類



- ① 紙袋に「雑がみ」だけをためて、たまったら袋ごと出す。
- ② 「雑がみ」だけを束ねてひもで十字にしばり、出す。
- ③ 少量であれば雑誌にはさんで出す。



恒例となったしもじょうまつりが今年も中学校をお借りし、「第十八回しもじょうまつり」として、盛大に開催されました。

当日は実行委員の皆さんで会場準備の仕上げをし、午後三時半からお祭りが開催されました。

ステージでお祭りのトップバッターを飾ったのはコスモキッズ、カッセイカマンとのコラボレーションでダンスをしてくれました。続いて「shimoyoyotte」の太鼓でお祭りらしい雰囲気を作ってくれました。

第18回 夏の恒例イベント！

しもじょうまつり開催

いつも発表をしてくれる空手クラブ・剣道クラブ・恵音同好会に加え、初参加の阿南高校軽音部の皆さんも登場してくれました。

清明園の周りでは、おいしい食べ物や、ゲームの屋台、阿南消防署・阿南警察署の体験コーナーや実際に使われている車両の展示等が行われました。

ステージにカッセイカマンが登場すると、子どもたちが中心に大盛り上がり、フキョウダの強さにピンチが訪れると「がんばれー！」と会場内は応援の声であふれかえり、カッセイカマンに力を与えました。

お祭りの目玉ともなっているうちわを使った抽選会では、体育館内に大勢の方が集まり、自分のうちわと読み上げられる数字を照らし合わせ、子どもたちは当たるよう祈っていました。どの商品も暑い夏を楽しく乗り越えられるような



商品で、当たっても当たらなくても楽しんでいただけたと思います。

大抽選会が終わると、外に子どもが集まり、御神輿の準備。ポツポツと雨粒が落ちてきました。子ども神輿が「わっしょい！」と元気な声とともに周りますと、あまりの元気の良さに雨も止み、心が落ち着く穏やかな光がともる竹宵の道、お祭りを締めくくる煙火大会も何事もなく楽しむことができました。

子どものエネルギーで楽しく過ごせた「第十八回しもじょうまつり」、下條村の発展・子どもたちの健やかな成長を祈念しながら、次回のお祭りを心待ちにしたいと思います。